

一三六 小乘大乘分別鈔

夫小大定なし。一寸の物を一尺の物に對しては小と云、五尺の男に對しては六尺七尺の男を大の男と云。外道の法に對しては一切の大小の佛教を皆大乘と云。大法東漸 通指佛教 以爲大法等と釋する是也。佛教に入ても鹿苑十二年の説、四阿含經等の一切の小乘經をば諸大乘經に對して、小乘經と名たり。又諸大乘經には大乘の中にとりて劣る教を小乘と云。華嚴の大乘經に其餘樂小法と申文あり。天台大師はこの小法といふは常の小乘經にはあらず、十地の大法に對して十住・十行・十回向の大法を下して小法と名と釋し給へり。又法華經第一卷方便品に若以小乘化乃至於一人と申文あり。天台妙樂は阿含經を小乘といふのみにあらず、華嚴經の別教、方等般若經の通別の大乘をも小乘と定む。又玄義の第一に會小歸大是漸頓混合と申釋をば、智證大師は始め華嚴經より終り般若經にいたるまでの四教・八教權實諸大乘經を漸頓と釋す。混合と云者八教を會して一大圓教に合とこそことはられて候へ。又法華經の壽量品に樂於小法德薄垢重者と申文あり。天台大師は此經文に小法と云は小乘經に

【系年】文永十年(52) 【真蹟】斷片 23紙、小湊誕生寺外 20所散在 【寫】本滿寺本 【刊】外 6₁₀ 道 15₂₂ 縮 1001 【註】微上 24 考 3₁₈

①若以…會小^① 65字^② 4行小湊誕生寺藏 ②〔經〕一^③ ④む=給^⑤ ①歸大…合と^⑥ 70字^⑦ 4行大野本遠寺藏 ③始め=初^⑧ ⑥と云者=をば^⑨